

令和5年度授業改善推進プラン【国語】

学校名 武蔵村山市立第二中学校

1年	【目指す授業】	基礎学力の定着と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○小学校学習漢字が身に付いていない生徒が多数おり、漢字の読み書きに課題がある。 ○話を聞くときにメモをとる習慣が身に付いておらず、正確な聞き取りに課題がある。		○小学校1年の学習漢字から、遡って指導を毎時間行うとともにタブレットPCを使って漢字練習を行う。 ○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	5(4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		68.6%	80%	72%
	6(2) 他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		45.7%	55%	83%
	【評価】	成果と課題			
B	○漢字練習の誤字について繰り返し書き直しをさせた結果、学習態度や意識に改善が見られた。 ○学習記録のメモを評価規準に加味したところ、意識及びメモ内容に飛躍的な改善が見られた。				

2年	【目指す授業】	基礎学力の定着と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○中学校学習漢字が身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 ○話を聞くときにメモをとる習慣が身に付いておらず、集中力の維持や正確な聞き取りに課題がある。		○中学校2年学習漢字を中心に、タブレットPCも使って中学校学習漢字の指導・練習を毎時間行う。 ○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	5(4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		61.8%	70%	34%
	6(2)他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		76.3%	85%	56%
	【評価】	成果と課題			
C	○学習指導のあらゆる場面で、誤字を書き直しさせた結果、学習態度や意識の改善が見られた。 ○学習記録のメモに対する意識は高まっているものの、文字を書くスピードが遅い。				

3年	【目指す授業】	基礎学力の向上と活用する力を付けられる授業			
	生徒の実態・課題		具体的な手だて		
	○入試頻出漢字が身に付いていない生徒が多数おり、漢字の読み書き・語彙数に課題がある。 ○話を聞くときにメモをとる習慣が身に付いておらず、正確な聞き取り・注意力の向上に課題がある。		○入試頻出漢字を中心に、タブレットPCも用いて、最大限可能な漢字の指導・練習を毎時間行う。 ○聞き取り練習を計画的に行うとともに、授業記録のメモ状態を单元ごとに確認し、随時指導を行う。		
	評価指標		6月	目標値	2月
	5(4) テストやドリルでまちがえたときは、まちがえた漢字を選んで、特に練習している。		54.5%	60%	24%
	6(2) 他の人の話を聞くときは、メモを取って理解するようにしている。		50%	60%	29%
	【評価】	成果と課題			
C	○学習指導の各場面で漢字指導を行ったが、意識や学習態度に顕著な改善は見られなかった。 ○年間を通じて聞き取り練習、メモ指導を行ったが、十分な成果は見られなかった。				

令和5年度授業改善推進プラン【数学】

学校名 武蔵村山市立第二中学校

1年	【目指す授業】	基礎的・基本的な学力の向上と問題解決のための情報整理			
		生徒の実態・課題	具体的な手だて		
		○基本的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多数いる。 ○問題文から情報を整理して立式することができず、解くことができない生徒が多数いる。	○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○問題から得られる情報を、図や表で表して他者に説明する活動を行い、文章になる情報を整理したり、数量関係を把握したりする力を高める。		
		評価指標	6月	目標値	2月
		問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	48.5%	60%	58%
		数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。	57.5%	70%	55%
		【評価】	成果と課題		
	C	○問題文の解釈に関する評価指標の数値が増加した。問題文を図や表、グラフを使って考えようとする姿が見られた。 ○説明に関する評価指数の数値が減少し、自身の考えを記述することに課題が見られた。説明する活動を組織するだけでなく、説明の記述が苦手な生徒に対する支援を考える必要がある。			

2年	【目指す授業】	基礎的・基本的学力の定着と言語活動の充実			
		生徒の実態・課題	具体的な手だて		
		○基礎的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多数いる。 ○説明の際、自分の考えを言葉で表すのが苦手な生徒が多い。	○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○他者に説明する活動を積極的に設定するなど、言語活動を充実させ、考えを表現する力を育み、基礎的な知識・技能の定着も図る。		
		評価指標	6月	目標値	2月
		問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。	47.3%	60%	68%
		数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。	58.1%	70%	62%
		【評価】	成果と課題		
	B	○評価指標の数値がどちらも増加した。問題文を図や表、グラフを使って考えようとする姿が見られた。 ○説明に関する評価指標は増加したが、説明を記述することに課題がみられた。説明する活動の設定だけでなく、説明の記述が苦手な生徒に対する支援の在り方を考える必要がある。			

3年	【目指す授業】	基礎的・基本的学力の定着と誤答分析の充実		
		生徒の実態・課題	具体的な手だて	
		○授業で学んだ基礎知識をその場では使えるが、反復演習をしないため、身に付かない。 ○間違えた問題や、理解が不十分なまま正解した問題を、もう一度考え直そうとする生徒が少ない。	○反復演習や授業ごとに小テストを行い、計算技能を身に付ける。 ○タブレット PC を活用して、問題演習や振り返り等を行い、学習内容の定着を図る。 ○定期考査ごとに誤答分析や解き直しを行い、自らが取り組んだ問題に対して、もう一度取り組む習慣を付ける。	

評価指標		6月	目標値	2月
数学で学習した言葉を使って自分の考えを説明している。		54.5%	70%	70.7%
問題文の内容を図や表、グラフに表して考えている。		52.3%	70%	63.4%
【評価】	成果と課題			
B	<p>○評価指標の数値がどちらも増加した。誤答分析等、問題に主体的に取り組む姿勢が見られた。</p> <p>○問題文を解釈する部分が目標値を達成できなかった。授業における問題文の状況把握や立式のための必要なものの理解を深めさせる必要がある。</p>			